

一般財団法人 Ruby アソシエーション
「2018年度 事業計画書」

2018年4月1日から
2019年3月31日まで

2018年3月31日
一般財団法人 Ruby アソシエーション

目次

はじめに	3
1 組織体制	3
1) 評議員	
2) 理事	
3) スタッフ	
2 実施事業	
1) Ruby開発及び、その他支援事業	3
2) 情報発信事業	4
3) Ruby技術者認定試験事業	5
4) 事業者認定事業	5
5) 標準維持事業	5
6) 協賛会員事業	5
7) 寄付事業	6
3 関係機関との連携	6
1) 松江市、島根県	
2) 日本 OSS 推進フォーラム	
3) その他、関係機関	
4 その他関係資料	6

はじめに

一般財団法人 Ruby アソシエーション（以下、「当財団」という。）は、Ruby の普及、発展と、ビジネス利用の拡大を目的として、2017 年度は、協賛会員などの支援のもと、公募型開発支援プロジェクト、安定版の保守事業、情報発信事業、技術者認定試験事業、並びに事業者認定事業に取り組んで参りました。

当財団を支援する協賛会員も順調に増えるなど、持続可能な産業循環である「Ruby Eco System」が更に広がっています。

この「Ruby Eco System」をより強固なものにするために、当財団は、Ruby に関係する開発コミュニティ、企業及び支援機関の良好な関係を築き、Ruby を利用される多くの皆様の発展に寄与できるよう、2018 年度も様々な事業に取り組めます。

1 組織体制

1) 評議員

引き続き評議員 13 名の体制で、法令、定款に定める権限を行使します。

2) 理事

引き続き理事 6 名の体制で、定款の定めるところにより財団を運営します。

3) スタッフ

常勤スタッフ 2 名の体制を継続できるよう、現在常勤スタッフを 1 名募集しております。その他、必要に応じて非常勤スタッフを活用するとともに、評議員輩出企業及び松江市、島根県による人的支援によって運営します。

2 実施事業

1) Ruby 開発及び、その他支援事業

(1) 公募型開発プロジェクト

Ruby 及び周辺環境の改善を目的に Ruby 処理系、ライブラリ及びフレームワークに関連する開発プロジェクト（既存のソフトウェアを改良するプロジェクトを含む）に対し、助成金を交付します。

(2) その他の助成

用途を限定しない助成金の申請窓口を設け、開発用の設備購入費用やサービス利用料、カンファレンスや開発会議への参加費用など、公募型開発プロジェクト以外の幅広い活動に対する助成を行います。

(3) Ruby 安定版保守事業

Ruby を安心して利用できる環境の提供と、開発コミュニティが Ruby の新たな機能開発に集中できる環境づくりを目的に、Ruby 処理系の保守を行います。

(4) サーバー運営費支援

Ruby コミュニティが運用しているサーバー運営費、Slack 有料プランの利用に対して資金面での支援を行います。

2) 情報発信事業

(1) Ruby 情報提供

①利用事例の紹介

これまで知られていなかった Ruby 利用事例を発掘し、充実した事例紹介の提供に努めます。この事例紹介では、日本 OSS 推進フォーラムなど関係機関と連携し、取り組めます。

②技術情報の紹介

現在提供している「Ruby の導入から開発・運用に至るまでに必要とされる一連の情報」について古くなった情報については部分的な更新や削除を行い精度向上に努めます。

③教育分野での Ruby 活用

Ruby の教育分野での取組みに対して情報発信を行います。若い世代に対して Ruby 学習者の裾野を広げていきます。

(2) RubyWorld Conference 2018

2018 年は、11 月 1 日（木）、2 日（金）に島根県松江市にて開催します。

当財団を中心に松江市、島根県、島根大学などで構成する RubyWorld Conference 開催実行委員会によって企画、運営をします。

この Conference は、Ruby のビジネス利用を中心とした国内最大のイベントとして評価されています。当財団は、今年度以降も Conference を継続して開催するために、関係機関と協調し、役割を果たします。今年度も、従来同様に「Ruby Eco System（Ruby の持続可能な生態系）」をテーマに、国内外から講演者を招聘、及び発表者を一般公募し、Ruby の先進的な利用事例、最新の技術動向などの様々な情報を発信します。

(3) Ruby Prize

RubyWorld Conference2017 で実施した Ruby Prize について、今年度も開催することを松江市等と検討します。

(4) イベント開催

東京、大阪、その他の都市で価値ある情報を提供するイベントを開催します。Ruby の活用事例を紹介するビジネスセミナーや、Ruby エンジニア向けのテックイベントを企画します。2018 年度も 5 回程度の開催を予定しています。なお、当財団による単独開催のほか、支援企業及び関係機関と連携して開催する場合があります。

(5) 宣伝広報活動

当財団の活動内容を幅広く周知することを目的に国内外における宣伝広報活動を強化します。情報を整理して発信することにより財団の目的と活動内容をよりわかりやすく読者に伝えます。また海外向けに英語を中心としたコンテンツの拡充にも努めます。

3) Ruby 技術者認定試験事業

Ruby ベースのシステムを設計、開発、運用するエンジニア、Ruby でシステム提案を行うコンサルタント、Ruby を教える講師などを対象とした認定試験を継続して実施します。試験の合格者は、Ruby 技術者としての技術力を公正に評価され、高い水準の Ruby によるシステム開発能力を有する「Ruby Association Certified Ruby Programmer Gold version 2.1」、又は「同 Silver」として認定します。また、教育機関が本認定試験を積極的に利用する動機となるような情報の提供を行ってまいります。

4) 事業者認定事業

各プログラムにて認定された事業者、教育機関は、質の高い Ruby に関連したサービスを提供する者として当財団のホームページなどを通じて紹介します。

(1) Ruby アソシエーション認定システムインテグレータプログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 5 名以上所属する事業者を登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified System Integrator Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(2) Ruby アソシエーション認定教育機関プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、

教材として「Ruby 公式資格教科書 Ruby 技術者認定試験 Silver/Gold 対応」を採用するか、同程度の内容を含むカリキュラムで、年間 2 回以上講習会などの教育を実施する教育機関を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Educational Institution Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(3) Ruby アソシエーション認定サポート事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、Ruby のサポートサービスを提供する事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Support Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

(4) Ruby アソシエーション認定クラウドサービス事業者プログラム

Ruby 技術者認定試験の Gold、又は Silver の認定技術者が正社員として 2 名以上所属し、ユーザが登録したアプリケーションを ISO/IEC 30170 に適合する処理系上で動作させることができるサービスを提供している事業者を、登録申請及び条件審査の後、「Ruby Association Certified Cloud Service Provider Gold」、又は「同 Silver」に認定します。

5) 標準維持事業

Ruby の言語仕様は、2012 年春、国際規格 (ISO/IEC 30170) に承認されました。当財団は、規格文書の保守及び改訂作業を行います。

6) 協賛会員事業

当財団では、Ruby の普及、発展を目指す事業に賛同し、支援いただける会員を募集することで財政基盤の安定化を図ります。募集対象は、法人、任意団体及び個人であり、支援いただく口数に応じて 3 区分を設けています (年会費：1 口 10 万円、4 月を開始月とします)。

協賛会員区分

(1) Platinum Sponsor	5 口以上 (50 万円以上)
(2) Gold Sponsor	2 口以上 (20 万円以上)
(3) Silver Sponsor	1 口以上 (10 万円以上)

2018 年度は、Platinum Sponsor として 14 社、Gold Sponsor として 25 社、また、Silver Sponsor として 50 社のご賛同を見込んでいます。

当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

7) 寄付事業

上述の協賛会員事業のほか、当財団の事業に賛同、支援いただける方に向けて、「Ruby Association Supporters」と称して寄付を募集いたします。当財団では、ホームページ、メーリングリスト、またビジネスセミナー等を通じて活動趣旨に賛同いただけるよう呼びかけます。

3 関係機関との連携

当財団は、その目的の達成に向けて関係機関との連携を促進します。

1) 松江市、島根県

当財団は活動の拠点 (主たる事務所) を島根県松江市に置いています。これまでも当財団の活動に賛同、支援いただいた松江市、島根県とは、一層連携を緊密にします。情報発信事業をはじめとした諸事業のみならず当財団の運営面においても支援いただくことで、充実した財団事業に取り組みます。

2) 日本 OSS 推進フォーラム

これまで同様に 2018 年度も同フォーラムの情報発信事業 (特に利用事例の公開) と連携した取り組みを進めます。

3) その他、関係機関

Ruby への取り組みを進める機関との連携を進めることは、当財団の目的の実現に向けて重要な課題です。特に以下の機関との連携、共同事業を検討します。

- ①一般社団法人 日本 Ruby の会
- ②福岡 Ruby・コンテンツビジネス振興会議
- ③NPO 法人 軽量 Ruby フォーラム
- ④一般社団法人 Ruby ビジネス推進協議会
- ⑤Ruby Central
- ⑥その他、国内外の機関

4 その他関係資料

2018 年度予算を別に掲載します。